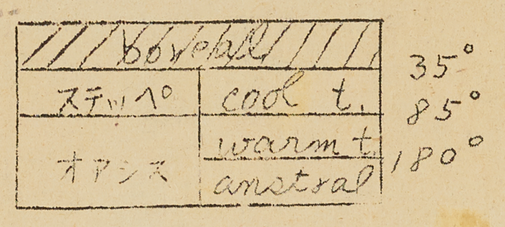
研究会 記録　　1959・1・26 (60)　　上山・今西・谷・志邨　川喜田・藤岡

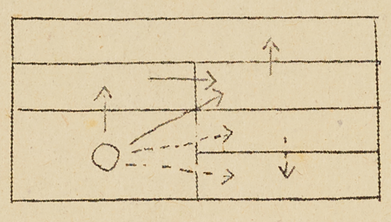
25日に今西から出された図が26日の研究会でまづ提出された。



35°の理由は農業北限界線
85° ステッペ地帯の成立
シナ・ローマ・サラセンなどの版図と一致する。(大帝国)
180° オアシスの方には差が明らかでない。
森林の方は農耕の難易の差があるだろう。

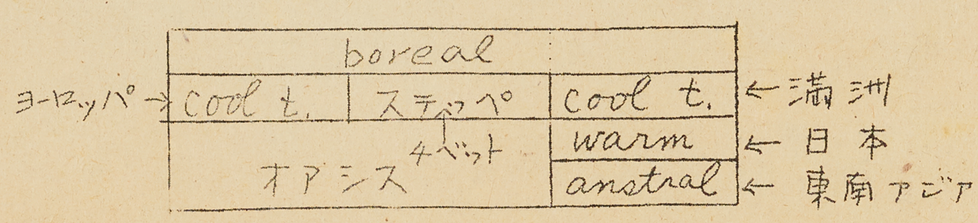
Kaw　forest (180°以上)では伝染病などを考慮する必要がある。

- オアシス地帯では灌漑が絶対必要である。これはウィットフォーゲルの扱う処とほぼ一致する。ここでは恵まれた地質だけが重層を生んだ。
- ステッペではこの地帯自身に重層は発展しなかった。又事実上内陸流域で水に恵まれなかった。
- cool temperate と warm temperate は梅棹の第一地域にあたる。
- civilization のデンパンは下図の通り。

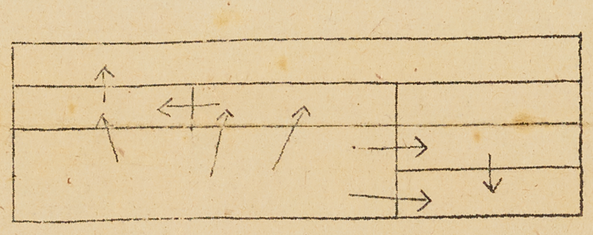


この図は資本主義以前まで。これで東と西の二つの世界が出来ている。この経過は三大宗教の分布とも関連が強いはずである。

- 梅棹説をこれに照らすと、ロシヤはステッペから出て、cool t. へ移った、第一地域的もっと正確にいえば、ステッペ・森林混合型というべきである。なお梅棹は東南アジアを東欧と対応させたがこの図ではそうならない。
そこで上図を梅棹に近い形になおすと次のようになる。



このようにすると先の文明のデンパンは次のようになる。



川喜田は攻め込みはこの矢の逆になるといった。今西は民族移動の問題と支配者や文明が乗り込むのとは区別するべきだという。

Uey　すると国家の型は二大型となる。即ちオアシス気候国家と森林気候国家(これは cool と warm と hot の三亜型がある)

- 結局はしかしもう一型混合型国家を考えた方がよい。

梅棹説ではアメリカは第3地域であるが、この図ではロシヤと同じ混合型である。現在強力なロシヤアメリカ・中共はみな混合国家である点に注意せよ。

- 大帝国時代まで国家成立はオアシス型85°以上の温量のところで大きくなり版図をひろげた、発見時代以后の植民地は同じ帯か或いは一段南へずらしていることに注意。更に定着確保した場合にそれが強い。イギリスがインドを离さねばならなかったのは二段ちがうからである!
- アメリカは cool と warm があってこれが南北の対立とも一致している。
- 森林国家の方が regionalism になる。オアシス型では何故大帝国になるかというと、散点的なオアシスにのみ人口があるからだ。これを網状につなげばよい。当然大地域になる。しかし森林の方では平面の拡がりが連続している。人口収容力も強い。だからここの農民層をおさえたシナはその后永続できている。混合国家の強みである。
- 残された問題。なぜ森林国家時代がきたのか、なぜここで産業革命が可能になったか。話題のひとつには陸上交易と海上交易とでは圧倒的に海上が有利だという点があった。また結局のところ森林の方が余剰が多くかつ集めやすいということがこの地域の連続性と関連させて論じられた。

Uey
Ima　系統の定義をはっきりしたい。
系統とはサル→軍層→重層→近代国家という順が非可逆的であると認めること。これで系統樹がかける。但し、一般生物ではこれで末がくっつかないから樹枝状になるが、人間の場合はくっつくから必ずしも樹枝状にならん前衛活花のようになるかもしれん。

Kyoto University

2.

Ima　Ⅱ→Ⅲの移りゆきが一本だけの道筋しかないかどうかを確かめたい。

Uey　Ⅱにおいて存在する商人と手工業農業のうち、商が先にⅢの段階をはじめ、工業は出おくれるのだがのちに工業がⅢにおいて卓越してくる。先走って優越した商は或る程度固定した性質をもってしまってかえって資本主義化しにくい。例えばアラビヤ商人、華僑など。

Ima　世界のどこでもそうならⅡ→Ⅲはやはりひとつの道しかない訳だ。Ⅱ→Ⅲの移りゆきを時間を時間を入れて歴史的に考えるとFig. 6のような図になる。

Fig. 6

	Ⅱ	Ⅲ
オアシス国家	○	
森林国家	○	○

Uey　しかし、前回で混合国家（オアシスと森林）を考えたのだから歴史を次のような4時代に区分したい。そして編成論は4のみ、即ち1910年頃を出発点としたい。即ち地球上の陸地が殆んどすべて何処かの領土となる時期、即ち地球が国家でおおいつくされる時期である。

1. オアシス国家時代　O
2. 混合国家時代　OF
3. 森林国家時代　F
4. 世界編成時代（新混合国家時代）　FO

O型　オアシス気候区をしめる口字

F型　森林気候区をしめる口字

1) O型
- O_1型　180°～85°……メソポタミヤ、インカ
- O_2型　180°以上……インド、エジプト
- O_3型　85°～35°……

2) F型
- F_1型　Cool Temp.……ヨーロッパ
- F_2型　warm Temp.……日本
- F_3型　Tropical……カルボジャ、マヤ

3) OF型
- O_1F_1型　ローマ
- O_1F_2型　シナ

4) FO型
- F_1O_3型　ロシヤ
- ~~$F_1F_2O_1O$~~
- $F_1F_2O_1O_2$型　アメリカ

Kyoto University